

● 地域提案型

平成22年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ウガンダ
2. 事業名	ウガンダ野生生物保全事業Phase2
3. 事業の背景と必要性	ウガンダ国はアフリカ諸国の中でも野生生物の生息が多く、その保護活動にも積極的に取り組んでいる。わが国は猿人類（チンパンジー、ゴリラなど）の研究が世界でトップレベルにあり、中でもこれまでに多数の研究者が同国でフィールド研究を行っている。しかしながら現在、地球規模での環境破壊の影響等により、野生生物を取り巻く環境は厳しさを増しており、同国においても国内外からの保護活動及び保全教育の必要性がますます高まっている。ウガンダ野生生物教育センター（Uganda Wildlife Education Centre : UWEC）は、自国の生物多様性保全への理解をミッションとしている機関であり、国民に対するウガンダ野生生物保全の周知と積極的な保護意識の啓発をビジョンとしている。UWECの機能強化を図ることにより、ウガンダの野生生物保護及び生物多様性保全に貢献するため、本プロジェクトの実施が提案された。
4. プロジェクト目標	UWECにおいて、野生生物保護及び生物多様性保全にかかる活動を主導するための機能が強化される。
5. 対象地域	ウガンダ野生生物教育センター
6. 受益者層（人数規模）	ウガンダ野生生物教育センタースタッフ
7. 活動及び期待されるアウトプット	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. UWEC獣医師が必要な獣医療技術を習得する。 2. 野生生物保護にかかる普及啓発活動がUWEC内で実施され、重要性が認識される。 3. UWECスタッフが飼育動物の人工繁殖にかかる技術を習得する。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 動物の健康検査・管理に関する研修の実施 1-2 UWEC内における衛生管理のための実習 1-3 衛生管理計画及び感染症対策を含む健康管理計画の策定・実施 2-1 UWECにおける普及啓発活動の新規プログラムの策定 2-2 普及啓発活動用の教材開発・作成 2-3 野生生物保護にかかる理解促進のためのワークショップ開催 2-4 普及啓発活動の実施のためのUWECスタッフへの実習 3-1 繁殖技術にかかる研修の実施 3-2 繁殖計画の策定 3-3 孵卵器の使用法、人工繁殖にかかる技術のための研修の実施 3-4 鳥類の人工授精技術にかかる研修の実施
8. 実施期間	2011年7月から2014年3月
9. 事業費概算額	17,000千円
10. 事業の実施体制	横浜市緑の協会とウガンダ野生生物教育センターにより実施
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	横浜市緑の協会（横浜市環境創造局）
2. 対象国との関係、協力実績	横浜市とJICAは2008年6月より2011年3月まで、草の根技術協力事業「ウガンダ野生生物保全事業」を実施してきた。この事業において、とりわけ獣医療技術、普及啓発活動に重点を置いた技術移転を行い、UWECにおける充実した普及啓発活動の実施やUWEC内における部署間の連携構築、また研究施設との共同作業を可能にするといった成果を発現させた。